

企業ニュース 明治ホールディングス

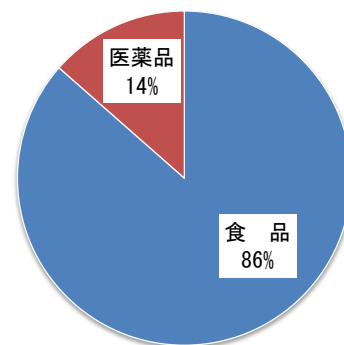
(東証1部：2269) <https://www.meiji.com>

作成者：兵藤三郎

幅広い事業領域を持つ食品メーカー大手

◇18.3期売上高構成比

2009年、明治製菓（1916年創業）と明治乳業（1917年創業）の経営統合により共同持ち株会社として設立。両社は共に1906年に設立された旧・明治製糖を起源とする企業、重複分野もあり統合により経営の効率化、成長機会の追求などを目指した。2011年、グループ内事業の再編をおこない、食品事業会社「明治」と医薬品事業会社「Meiji Seika ファルマ」を発足させた。2018年7月、一般財団法人化学及血清療法研究所（化血研）の主要事業を継承した「KMバイオリジクス」を連結子会社化した。食品事業では乳幼児の粉ミルク、子供向け菓子、スポーツ時などの栄養補助食品、老人向け流動食・栄養補助食品など、医薬品事業では医療用医薬品のほかインフルエンザワクチンなど、人生の様々なシーンに係る幅広い製品を取り扱っている。



(出所) 明治ホールディングス資料より
CAM作成

主力商品の回復が業績伸長の鍵

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が6,120億円、前年同期比横ばい、営業利益が438億円、同3%減。主力の食品事業は原材料調達コスト低減、販管費などのコントロールによる増益要因はあったが、業績をけん引してきたプロバイオやチョコレートの減収影響を補えず減益となった。医薬品事業は薬価改定の影響が懸念されたものの、統合失調症治療薬「シクレスト」、アレルギー性疾患治療薬「ピラノア」の伸長、原価低減などで補い増益を確保した。KMバイオリジクスの連結効果も増益寄与した。

19.3期連結業績の会社計画は、売上高が1兆2,655億円、前期比2%増、営業利益が1,010億円、同7%増。食品事業では販管費などのコントロールを継続し、主力品の増販やミックスの改善などにより増益を確保する計画。医薬品事業でのKMバイオリジクス新連結効果も増益要因となろう。上期苦戦したプロバイオは商品価値の訴求などの施策で成長回帰を目指し、回復傾向を示しているチョコレートは「ザ・チョコレート」に注力し成長を継続させる方針。

[株価動向・投資判断]

健康を基軸とした多くの商品を持つ企業として評価したい。プロバイオに回復の兆しもあり、下期以降の業績回復を期待したい。

<2269 明治HD 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,242,480 (2)	88,395 (14)	88,839 (9)	60,786 (▲ 3)	413.1	記110.00
18.3	1,240,860 (▲ 0)	94,673 (7)	95,877 (8)	61,278 (1)	422.2	130.00
19.3 予	1,265,500 (2)	101,000 (7)	101,000 (5)	71,000 (16)	489.5	130.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/12/3)	8,990 円
年初来高値(高値日)	9,840 円(18/1/9)
同 安値(安値日)	7,170 円(18/9/14)
予想 P E R (19.3 予)	18.4 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,588.5 円
P B R	2.51 倍
予想配当利回り	1.45 %
(1株当たり配当金130.00円)	
R O E (18.3)	13.1 %
発行済み株式数	15,268 万株